

神から出たもの

シリーズ～続 福音の力～

2021/6/13

これまでの経緯

- イエス様の帰天(1章)
- 教会の誕生(2章)
- 「美しい門」での癒し(3章)
 - 神殿での証言
- 議会での取り調べ(4章)
 - 指導者たちへの証言
 - 教会の祈り
- アナニアとサフィラの事件(5:1~11)
 - 互いに支え合っていた初代教会

使徒言行録 5章12～16節

使徒たちの手によって、**多くのしるしと不思議な業とが民衆の間で行われた**。一同は心を一つにしてソロモンの回廊に集まっていたが、ほかの者はだれ一人、あえて仲間に加わろうとはしなかった。しかし、民衆は彼らを称賛していた。そして、**多くの男女が主を信じ、その数はますます増えていった**。人々は病人を大通りに運び出し、担架や床に寝かせた。ペトロが通りかかるとき、せめてその影だけでも病人のだれかにかかるようにした。また、エルサレム付近の町からも、群衆が病人や汚れた霊に悩まされている人々を連れて集まって来たが、一人残らずいやしてもらった。

使徒言行録 5章17～42節

そこで、大祭司とその仲間のサドカイ派の人々は皆立ち上がり、ねたみに燃えて、使徒たちを捕らえて公の牢に入れた。ところが、夜中に主の天使が牢の戸を開け、彼らを外に連れ出し、「行って神殿の境内に立ち、この命の言葉を残らず民衆に告げなさい」と言った。これを聞いた使徒たちは、夜明けごろ境内に入って教え始めた。一方、大祭司とその仲間が集まり、最高法院、すなわちイスラエルの子らの長老会全体を召集し、使徒たちを引き出すために、人を牢に差し向けた。下役たちが行ってみると、使徒たちは牢にいなかった。彼らは戻って来て報告した。「牢にはしっかり鍵がかかっていたうえに、戸の前には番兵が立っていました。ところが、開けてみると、中にはだれもいませんでした。」

この報告を聞いた神殿守衛長と祭司長たちは、どうなることかと、使徒たちのことで思い惑った。そのとき、人が来て、「御覧ください。あなたがたが牢に入れた者たちが、境内にいて民衆に教えています」と告げた。そこで、守衛長は下役を率いて出て行き、使徒たちを引き立てて来た。しかし、民衆に石を投げつけられるのを恐れて、手荒なことはしなかった。

彼らが使徒たちを引いて来て最高法院の中に立たせると、大祭司が尋問した。「あの名によって教えてはならないと、厳しく命じておいたではないか。それなのに、お前たちはエルサレム中に自分の教えを広め、あの男の血を流した責任を我々に負わせようとしている。」ペトロとほかの使徒たちは答えた。「人間に従うよりも、神に従わなくてはなりません。わたしたちの先祖の神は、あなたがたが木につけて

殺したイエスを復活させられました。神はイスラエルを悔い改めさせ、その罪を赦すために、この方を導き手とし、救い主として、御自分の右に上げられました。**わたしたちはこの事実の証人であり、また、神が御自分に従う人々にお与えになった聖霊も、このことを証ししておられます。」**

これを聞いた者たちは激しく怒り、使徒たちを殺そうと考えた。ところが、民衆全体から尊敬されている律法の教師で、ファリサイ派に属するガマリエルという人が、議場に立って、使徒たちをしばらく外に出すように命じ、それから、議員たちにこう言った。「イスラエルの人たち、あの者たちの取り扱いは慎重にしなさい。以前にもテウダが、自分を何か偉い者のように言って立ち上がり、その数四百人くらいの男が彼に従ったことがあった。彼は殺され、従っていた者は皆散らされて、跡形もなくなった。

その後、住民登録の時、ガリラヤのユダが立ち上がり、民衆を率いて反乱を起こしたが、彼も滅び、つき従った者も皆、ちりぢりにさせられた。そこで今、申し上げたい。あの者たちから手を引きなさい。ほうっておくがよい。あの計画や行動が人間から出たものなら、自滅するだろうし、神から出たものであれば、彼らを滅ぼすことはできない。もしかしたら、諸君は神に逆らう者となるかもしれないのだ。」一同はこの意見に従い、使徒たちを呼び入れて鞭で打ち、イエスの名によって話してはならないと命じたうえ、釈放した。それで使徒たちは、イエスの名のために辱めを受けるほどの者にされたことを喜び、最高法院から出て行き、毎日、神殿の境内や家々で絶えず教え、メシア・イエスについて福音を告げ知らせていた。

再び捕らえられた使徒たち

- 使徒たちによるしるしと不思議
 - ペトロの影がかかっただけでも癒された？
 - 多くの人々が仲間に加わった
- 大祭司と仲間たちが使徒たちと捕らえ、投獄
 - 「ねたみに燃えて」> 彼らの人気に嫉妬した
- 天使によるレスキュー！
 - 「夜中に主の天使が牢の戸を開け、彼らを外に連れ出し、『行って神殿の境内に立ち、この命の言葉を残らず民衆に告げなさい』と言った。」
- 夜明けとともに神殿で宣教
 - 「夜明けごろ境内に入って教え始めた」

再び議会で証言

- 使徒たちを引き出そうとするがもぬけの殻
 - 鍵がかかり、番兵がいたのに気付かなかった！
- 使徒たちは神殿で宣教中
 - 彼らが民衆に教えていると告げる人が
- 最高法院に連れてきて尋問
 - 「あの名によって教えてはならないと、厳しく命じておいたではないか。」
- 使徒たちは大胆に証言
 - 「人間に従うよりも、神に従わなくてはなりません。…わたしたちの先祖の神は、あなたがたが木につけて殺したイエスを復活させられました。…」
 - これを聞いた人々は使徒たちを殺そうとする

ガマリエルの発言

- ガマリエルが立ち上がる
 - ファリサイ派の教師／パウロの師匠でもある(22:3)
- 自滅した輩(やから)たち
 - テウダ: 四百人の手下と共に反乱を起こしたが、殺され手下たちも捕らえられた(BC4年頃?)
 - ガリラヤのユダ: 民衆を率いて反乱を起こすも、殺され、従った者たちもちりぢりに(AD6年頃?)
- 彼らを放っておきなさい
 - 「あの者たちから手を引きなさい。ほうっておくがよい。あの計画や行動が人間から出たものなら、自滅するだろう…。

鞭打たれるも宣教に邁進！

- 神に逆らうことになる
 - 「神から出たものであれば、彼らを滅ぼすことはできない。もしかしたら、諸君は神に逆らう者となるかもしれないのだ。」
- 鞭打たれる使徒たち
 - 「使徒たちを呼び入れて鞭で打ち、イエスの名によって話してはならないと命じたうえ、釈放した」
- 逆に力を得て宣教を続ける
 - 「イエスの名のために辱めを受けるほどの者にされたことを喜び…毎日、神殿の境内や家々で絶えず教え、メシア・イエスについて福音を告げ知らせていた。」

神から出たもの

- いかなる迫害にも屈せず福音は拡大した
 - 「証人」=“殉教者(martyrdom)”
 - ガマリエルの予言？は的中した！
- 「神から出たもの」
 - 人間(自分)の計画か、神の計画か
 - 小さな事にいちいち当てはめてはならない！
 - しかし、重大な決断を下す際には、「神から出たもの」であるかどうか問わなければならない
 - 「神から出たもの」であれば道は開かれる！